

平成 30 年度東京歯科大学水道橋病院

医療連携報告会・懇親会

プログラム・抄録集

日 時：平成 30 年 10 月 3 日（水）18:30～

会 場：東京歯科大学水道橋校舎新館血脇記念ホール

「次の世代に伝えたい！

—歯科医療の未来は？—」

□ 講 演 ① 18:35～「老年歯科医学の観点からみた歯科医療の方向性」

□ 講 演 ② 19:05～「近未来的ロードマップ、

再生医療と A I が現在の歯科治療を超える日」

□ 講 演 ③ 19:35～「矯正歯科治療の近未来

—いつまでも若く健康的な噛み合わせを—」

◆ 懇 親 会 20:40～ 会場：水道橋校舎南棟 2 階会議室

平成 30 年度東京歯科大学水道橋病院
医 療 連 携 報 告 会 ・ 懇 親 会

【医療連携報告会】

日 時：平成 30 年 10 月 3 日(水) 18:30～

会 場：東京歯科大学水道橋校舎新館血脇記念ホール

テーマ：「次の世代に伝えたい！
－ 歯科医療の未来は？－」

司会：地域医療連携委員会委員長・副病院長 山 下 秀一郎

17:30～ 受付開始

18:30～ 開会挨拶 地域医療連携委員会委員長・副病院長 山 下 秀一郎

18:35～ 講 演 ① 「老年歯科医学の観点からみた歯科医療の方向性」
老年歯科補綴学講座教授 櫻 井 薫

19:05～ 講 演 ② 「近未来的ロードマップ、
再生医療と A I が現在の歯科治療を超える日」
臨床検査病理学講座教授 井 上 孝

19:35～ 講 演 ③ 「矯正歯科治療の近未来
－いつまでも若く健康的な噛み合わせを－」
歯科矯正学講座教授 末 石 研 二

20:05～ 質疑応答

20:20～ 閉会挨拶・お礼 水道橋病院長 矢 島 安 朝

【懇 親 会】

時 間：20:40～

会 場：東京歯科大学水道橋校舎南棟 2 階会議室

※懇親会会場にポスター展示コーナーを設けます。

～ 講演 ① ～

「老年歯科医学の観点からみた歯科医療の方向性」

東京歯科大学
老年歯科補綴学講座 主任教授
櫻井 薫

高齢化率が 27.7%（2017 年 10 月、総務省）である日本の歯学や歯科医療は、当然高齢者への対応が喫緊の課題である。厚生労働省も歯科治療の需要は、形態回復よりも機能回復にシフトしていくと予想している。そのような状況下で、以前から行ってきた日本老年歯科医学会の活動が実って、本年 4 月より、口腔機能低下症の対応が保険導入された。このことは他国やフレイルを広めた医科からも注目されている。国民からも口腔機能低下症の診断を行っている歯科医院を紹介して欲しいという依頼が学会にある。しかし本学以外の教育や歯科医療の現場では、国民の需要に追いついていない可能性がある。教育の場でも歯科医師や歯科衛生士を目指す学生が、口腔機能低下症に対応できるようなプログラムを導入していなければならない。

日本において、要介護状態になる原因の一位は認知症であり、その認知症高齢者は、2025 年には 700 万人前後に達すると報じられている。また 2015 年 1 月に新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）では、早期診断・早期対応のための体制整備を目的に、歯科医師の認知症対応力向上研修の実施が明文化された。今後は、認知症患者の歯科における対応の頻度が増加する。認知症発症と口腔との関係、認知症初期段階での早期発見への関わり、の整備、歯科医療の意思決定プロセスの整備、歯科治療・口腔機能の管理などの指針の作成を科学的に進めなければならない。

また健康寿命が伸び悩んでいる中、健康長寿延伸を達成する方策として、栄養の視点を取り入れた歯科医療が必要である。安全に摂取できる食事の選択や十分な栄養摂取が可能となるように、咀嚼機能に応じた食形態の選択や咀嚼機能を考慮した栄養指導が必要となる。そこで、歯科医師として必要となる知識は栄養学であり、連携をとる職種は管理栄養士であろう。

今後は唾液から得られた遺伝子情報をもとに、他職種と協働して、個々に適した生活改善を指導して、歯科が健康寿命の延伸にますます寄与できると確信している。

～ 講演 ② ～

「近未来的ロードマップ、

再生医療とA Iが現在の歯科治療を超える日」

東京歯科大学

臨床検査病理学講座 主任教授

井上 孝

巷では、人生 100 歳時代という錯覚の波が押し寄せている。しかし、その引き波では、死亡率の増加と、出生率の低下による人口の減少という白波が高くなっていることを忘れてはならない。長生きできる人が多くなったことは事実であるが、その反面、癌、心臓病、そして脳血管疾患により亡くなる人が多いのは、工業化社会の特徴でもある。8020 がある程度達成された今、歯科界に流れている新たな錯覚の波は、「口腔健康管理から全身健康」という大きな波で、その波が社会に「健康長寿」をもたらすと理解されている。しかし、この大きな波に潜む、患者は「基礎疾患を持ち全身状態の悪い」、「日常生活での自立度が低い」、そして、「加齢に伴う口腔内変化が大きい」ことについていくことが求められる近未来的歯科医療であろう。

翻って、口腔健康管理により、発癌が起らず、心臓病と脳血管疾患に罹患することが無くなる訳があるとは思えない。但し誤嚥性肺炎が少なくなることは間違いない。口腔内の細菌が原因だからである。いずれにせよ、今後、歯科医科連携、多職種連携の中で「知識」は大変重要なコミュニケーションツールであることは間違いない。

さて、近未来的ロードマップの中で、歯科医療が再生医療とA Iの進歩の中で遅れをとるわけにはいかない。しかし、歯科治療の大前提が、「開放創の病態」を相手にすることを忘れてはならない。この「開放創」は、生体外から見れば「細菌の侵入門戸」であり、生体内から見れば「異物、感染物、抗原性物質の排出路」である。たとえば、歯周再生療法の対象である歯周病も「開放創」で、そこに再生材料と手法を用いなければならないことを念頭に置かねば、再生成功への道は遠い。如何に閉鎖創にするかも大きな課題であろう。また、これからの歯科医療において「医工連携による物作り」を、医科の二番煎じとならないよう、進めていく必要がある。歯科治療の技術的問題点は、必ずやA Iが解決してくれる。「匠の世界からの脱却」も次世代へのバトンかもしれない。

今回は講演の機会を与えて頂き、これからの歯科医療について病態学的、再生学的、そして技術革新の立場から有るべきロードマップについてお話したい。

～ 講演 ③ ～

「矯正歯科治療の近未来

－いつまでも若く健康的な噛み合わせを－

東京歯科大学
歯科矯正学講座 主任教授
末石 研二

矯正歯科治療の口腔保健上の意義と顎口腔の加齢現象の解明を目指し、講座の茂木客員教授らを中心に、長期保定症例の観察と8020達成者の歯列、咬合に関する歯科矯正学的研究を行ってきた。長期保定例の観察からは、動的治療後の上下顎骨の成長変化に対する歯の位置的適応の有無と歯列の狭窄に伴う叢生の発現とが安定性に寄与していた。

8020達成者の咬合は50～60%はほぼ正常咬合であり、上顎前突と過蓋咬合がおおよそ40%を占めており、反対咬合はほとんど見られなかった。下顎に3mm以上の叢生を示すものが40～50%であった。歯の傾斜では小臼歯から前歯にかけて近心傾斜がみられ、叢生に関与すると考えられた。

また、20歳代からの咬合の加齢変化を明らかにすべく、縦断的研究を口腔模型の三次元解析を用いて行った。比較的咬合が良好な群において、40歳代に至るまでの歯列の変化では、上下歯列の幅径の減少と、上顎歯列長径の増加、下顎歯列長径の減少を認めた。上顎犬歯と臼歯は近心傾斜を示し、下顎歯列での叢生の増加、OJ, OBの増加を認めた。また、叢生を示す不正咬合においては、上下切歯の叢生が増加した。上顎歯列長径は減少し、上顎犬歯の近心傾斜を認めた。下顎歯列では歯列の前幅径の減少と犬歯の舌側傾斜を認めた。

これらは歯列の加齢現象と考えられるが、いずれも歯と歯周組織がほぼ健康な状況にある個体である。歯の欠損と歯周病を持つ場合に、この加齢現象が進行することは想像に難くない。現在のところ、矯正治療経験者が80歳代になった時に、どのような歯列、咬合状態にあるかは全く不明である。

演者は矯正歯科治療が歯列、咬合の健康に寄与しており、さらに壮年期における加齢現象の抑制に矯正治療が有効であると信じているが、近い将来、これらのことが証明できる日が来ることを願うものである。

病院長	矢 島 安 朝
副病院長	末 石 研 二
副病院長	山 下 秀 一 郎
副病院長	高 野 正 行

東京歯科大学水道橋病院

診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)

(H30.9.1現在)

診療科名	職名	氏名	講座名
保存科	部長・教授	古 澤 成 博	歯内療法学
	講師	山 田 雅 司	
		間 奈津子	
	助教	佐 古 亮	
		杉 内 亜紀奈	歯周病学
	教授	齋 藤 淳	
	医局長・講師	勢 島 典	
	講師	大 井 麻 子	
	助教	喜 田 大 智	保存修復学
		今 村 健太郎	
		青 木 栄 人	
	教授	村 松 敬	
	准教授	杉 戸 博 記	老年歯科補綴学
	講師	春 山 亜貴子	
		半 場 秀 典	
補綴科	助教	中 村 圭 喜	
	教授	櫻 井 薫	老年歯科補綴学
	准教授	上 田 貴 之	
		石 崎 憲	
	講師	竜 正 大	
		高 野 智 史	クラウンブリッジ補綴学
	助教	太 田 緑	
		和 田 健	
	部長・教授	佐 藤 亨	
	医局長・講師	野 本 俊太郎	クラウンブリッジ補綴学
	講師	四ツ谷 護	
		腰 原 輝 純	
	助教	神 田 雄 平	
		酒 井 貴 徳	パーシャルデンチャー補綴学
口腔外科	教授	山 下 秀 一 郎	
	臨床准教授	堀 田 宏 巳	
	講師	(田 坂 彰 規)	
		森 岡 俊 行	
	助教	中 村 恵 子	パーシャルデンチャー補綴学
		古 屋 克 典	
		大 平 真理子	
		田 中 章 啓	
	教授	柴 原 孝 彦	口腔顎顔面外科学
	客員教授	高 野 正 行	
		齊 藤 力	
	医局長・講師	山 本 信 治	
	講師	(渡 邊 章)	口腔顎顔面外科学
	助教	吉 田 秀 児	
		大 野 啓 介	
		山 村 哲 生	
		関 根 理 予	口腔病態外科学
口腔外科	部長・教授	片 倉 朗	
	准教授	笠 原 清 弘	
	講師	別 所 央 城	
		菅 原 圭 亮	
	助教	西 山 明 宏	
		高 木 亮	

診療科名	職名	氏名	講座名	
矯正歯科	部長・教授	末 石 研 二	歯科矯正学	
	准教授	西 井 康		
	講師	宮 崎 晴 代		
		片 田 英 憲		
	医局長・講師	石 井 武 展		
	助教	(安 村 敏 彦)		
		海老澤 朋 宏		
	内 山 沙 姫			
小児歯科	部長・教授	新 谷 誠 康	小児歯科学	
	医局長・講師	辻 野 啓一郎		
	講師	櫻 井 敦 朗		
	助教	本 間 宏 実		
		荒 井 亮		
歯科麻酔科	部長・教授	一 戸 達 也	歯科麻酔学	
	部長代理・准教授	松 浦 信 幸		
	講師	半 田 俊 之		
	医局長・助教	久木留 宏和		
	助教	吉 田 香 織		
口腔インプラント科	部長・教授	矢 島 安 朝	口腔インプラント学	
	講師	本 間 慎 也		
		(佐々木 穂 高)		
	医局長・講師	高 梨 琢 也		
	助教	守 源太郎		
		吉 田 光 孝		
平 野 友 基				
スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	科長・教授	福 田 謙 一	口腔健康科学	
	准教授	大多和 由 美		
	医局長・助教	半 沢 篤		
	助教	野 口 智 康		
健康スポーツ歯科	科長・教授	武 田 友 孝		
	医局長・講師	中 島 一 憲		
摂食嚥下リハビリテーション科	科長・教授	石 田 瞭		
	医局長・准教授	大久保 真 衣		
放射線科	部長・教授	後 藤 多津子	歯科放射線学	
	准教授	和 光 衛		
	医局長・講師	音 成 実 佳		
	助教	渡 邊 素 子		
		小 高 研 人		
臨床検査科	部長・教授	井 上 孝	臨床検査病理学	
	教授	松 坂 賢 一		
	講師	村 上 聡		
		國 分 克 寿		
	助教	(中 島 啓)		
内科	教授	大久保 剛		
	科長・准教授	山 岸 由 幸		
	准教授	仁 科 牧 子		
眼科	科長・教授	ビッセン 弘子		
	講師	平 沢 学		
	助教	滝 澤 菜 摘		

()長期出張中

～ ご 案 内 ～

【診療情報提供書（紹介状）について】

「診療情報提供書（紹介状）」ご入用の際には、恐れ入りますが下記までご連絡のほどお願いいたします。

東京歯科大学水道橋病院 地域医療連携室
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18
TEL:03(5275)1732(ダイヤルイン)、FAX:03(3262)3215
E-mail:renkeish@tdc.ac.jp

【各科へのお問い合わせ電話番号について】

診療のお約束やお問い合わせは、各科直通ダイヤルインにおかけ下さいますようお願い申し上げます。

受付時間：平日 8:45～18:00 土曜 8:45～13:00

保 存 科	03(5275)1721 03(5275)1722	口腔インプラント科	03(5275)1760
補 綴 科	03(3262)3425 03(3262)3426	健康スポーツ歯科	03(5275)1721 03(5275)1722
口 腔 外 科	03(5275)1725	摂食嚥下リハビリテーション科	03(5275)1732
矯 正 歯 科	03(5275)1724	放 射 線 科	03(5275)1953
小 児 歯 科	03(5275)1723	内 科	03(5275)1926
スペシャルニーズ歯科・ ペインクリニック科	03(5275)1795	眼 科	03(5275)1856
歯 科 麻 酔 科	03(5275)1851	医 事 課（受 診 案 内）	03(5275)1932

【日本歯科医師会生涯研修について】

当医療連携報告会は、(社)日本歯科医師会生涯研修事業に認定されております。

受付に IC カードリーダーを用意しておりますので、会員の先生方は、日歯生涯研修事業 IC カードをタッチして単位登録を行ってください。

《MEMO》

地域医療連携委員会委員

【委員長】 山下秀一郎 【副委員長】 大多和由美 【顧問】 矢島安朝、加藤靖明

【水道橋病院委員】 家永祐子、石井 哲、石田 瞭、一戸達也、井上 孝、
片倉 朗、亀山 桂、後藤多津子、佐藤 亨、椎名美和、新谷誠康、末石研二、
高野正行、武田友孝、日塔慶吉、ビッセン弘子、福田謙一、古澤成博、本間慎也、
松浦信幸、宮城島俊雄、山岸由幸

【学外委員】 臼田 準、元田文治、仲谷清孝、濱 克弥、文野弘信、矢郷生和、山本秀樹

※50 音順